

農業と科学

1987
1

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

あらゆる技術のシステム化による
21世紀への農業技術の革新を！

チッソ旭肥料株式会社 常務取締役 桜井 久也



明けましておめでとうございます。新年に当り皆様様の御多幸と、ますますの御発展をお祈り申し上げます。

昨年は我が国の産業界、経済界をとりまく内外環境は、一転して誠に厳しい状況となり、オイルショックに匹敵する大きな変動に見舞われました。円レートの急激大幅な上昇、構造不況を追打ちする円高不況、幾つかの製造業の縮小・大幅減益、産業空洞化、失業率の増加等々、しかも円高に拘らず一方的で大幅な対米対欧出超が続き貿易摩擦がより激化して遂に米国より聖域の一線を越えて米の自由化要求にまで波及して来しました。国鉄、税制、教育など幾つかの政策改革を含め、62年度以降は更に厳しい激動の内外状況が続いてゆくものと思われまます。

農業分野におきましても、米価問題、水田減反転作、等々一層厳しさが増えています。

農業は、国民の食糧、生活、環境、民俗文化、安全保障の絶対基盤であり、単に一時的な経済合理性、効率性の点からのみで可否を判断できないのは当然であります。

むしろ内外激動の時代故に、食糧の安定自給と云う農業本来の使命が、より高くなったと考えられます。

しかし一方、激しい国際経済戦争とも云える環境下では、輸入圧力抵抗性のない商品や産業は、たとえ農産品と云えども自立存続が危ぶまれる事があり得る状況です。

このような厳酷な状況を踏まえ我が国の農業構造改革について、昨年11月、農政審議会は「21世紀へ向けての農政基本方向」と云う報告を提出しました。産業として自立し得る農業の育成確立を目指して、社会政策、国土政策、消費者政策、国際協調政策の各視点よりバランスよく調和のとれた総合政策を実施すべき事を協調しています。農業は総合サイエンス・システム産業として発展していかなければならないと考えます。我が国は、バイオ・生物科学・農水産技術、またエレクトロニクス・情報通

信、及び化学・機械・土木など各種の工学・工業技術・生産技術、更に産業経営ノウハウなど世界一流のハードやソフトを充分に持ってあり、これら技術の集約総合化、システム化が、新しい21世紀の農業の為に最大の貢献をすることができる筈です。官学民、農業・工業・学術のあらゆる学際業際的な連

携活動、開発協力が必須です。また改革政策の具体的推進の為に国力・経済力も、現在の我が国には十分あります。短兵急、小手先の改善ではなく、21世紀を見通した着実な革新を、国民全員が自らの課題として取り組み進めてゆく事により、21世紀農業の明るい未来を築きあげねばならないと考えます。

弊社は、永年に亘り肥料技術の開発を進め、高度化成肥料を中心として、今迄に、CDU・被覆磷硝安加里(ロング)・被覆尿素(LP)・樹木打込用肥料(グリーンパイル)・床土用資材(与作)等のユニークな製品を上市して参り、皆様に御愛用して戴いて来ましたが、今後は更に、21世紀へ向けての農業革新、技術システム化の一端を担うべく、より情報性機能性をもった肥料及び肥料技術の開発、栽培技術の研究に努力して参りたいと、心構えを新たにしております。そして又御愛読戴いておりますこの小冊子も、皆様の貴重な御意見、御支援をより一層多く頂戴して、編集や内容を脱皮革新させていきたいと念願しております。今後ともどうかよろしく御指導、御鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。

本号の内容

- あらゆる技術のシステム化による
- § 21世紀への農業技術の革新を！……………(1)
チッソ旭肥料株式会社 常務取締役 桜井 久也
 - § V A 菌根菌とその農業利用の可能性(1)……………(2)
農林水産省草地試験場 土壌微生物研究室長 西尾 道徳
 - § 施設野菜の施肥(1)……………(7)
—高知県における歴史と今後の動向—
高知県園芸試験場 柳井 利夫